

## 同じものをいくつも買ってため込む…

⇒別の物を買うように誘導しましょう

### 【 認知症の人の状態 】

決まった食品や日用品を頻繁に買ってきて、家にため込む行動は、認知症の初期に現れる症状のひとつです。前の日に何を買ったのかを忘れてしまうため、毎日、同じものを買ってしまうのです。特に女性の場合は“料理をしなければならない”という思いがあるのかもしれません。（昔の習慣）

ご本人には悪気はないですし、必要だと思って購入していることもあるので「こんなにいらないだろう!」「もう買ってこないでくれ!」と注意しても理解できません。「理不尽に怒られた」という嫌な記憶だけが残ってしまいます。

### 【 対応方法 】

- ①できるだけ買い物に付き合っ、**「〇〇よりも△△が食べたいな」「××を買わなくちゃ」**などと声をかけ、別のものに気をそらすようにしましょう。
- ②お店の人に協力してもらい、返品できるものなら、**あとで返品**させてもらえるように頼んでおいたり、レジで**「卵は明日の方が安いですよ」**と声をかけてもらったりしましょう。
- ③高額な商品でなければ、好きなように買い物させて、賞味期限の切れた食品は、ご本人がいない所で**少しずつ処分**するようにしましょう。人によっては、冷蔵庫以外のところにしまっている場合もあるので注意しましょう。同じものを買ってきたとしても、それは**認知症の人が今できることのひとつ**です。買い物をしてくることも、**長くは続かないことが多い**です。今できることをさせてあげるのも、手段ではないかと思います。

参考文献：認知症の人と家族の会、認知症になった家族との暮らしかた、ナツメ社、2018、P80-81

2022.6作成

「明日のほうが、安いですよ」



地域の助けを得たり、余ったものは近所の人にあげたりと、地域との関わりを持ちながら、対応してみてください。



認知症疾患医療センター

TEL 029-847-9581

(月)~(水)(金)(土)9:00~16:00